

おごり 遺産

粥占い

発見!

No. 033



御勢大霊石神社で供覧された粥の様子
(令和5年2月撮影)

炊いたお粥に生えたカビの様子で新年を占う「粥占い」。どのようなものか、知っていますか？

白い塊に黒っぽいものが点々と写っているのが写真、一体何を写したもので分かりますか？写っているものは「粥占い」の粥で、占いでは粥に生えたカビの様子によって、その年の天候や作物の豊凶などを占います。

一般的に広く行われている「粥占い」は、小豆粥を炊いている鍋に筒状のものを入れ、中に入った粒の種類や量を見たり、「だんだら粥」のように箸や餅などについた粒によって判断したりするものです。粥に生えたカビで占いを行うのは北部九州特有の行事であると言われ、筑後川流域と下流域の平野や、脊振山の東から南に広がる平野部に分布しています。福岡

市西区にある飯盛神社でも「お粥試し」が行われていますが、江戸時代後期に書き写された文書によると、それは鎌倉時代後期にはすでに行われていたと記されています。

小郡市内では、大保の御勢大霊石神社と、西福童の大中臣神社で「粥占い」が行われています。御勢大霊石神社では、一月十五日に新米二合半を炊き、東西南北の紙を側面に貼った器に入れ、これを神前に供えます。二月六日に神前から下げて、氏子に供覧し、粥のカビの兆しによってその年の吉兆を占います。大中臣神社では、二月十五日に一升五合の粥を炊き、三月十一日に「粥占祭」を行います。

「カビは青か緑だけで、ひび割れもなくきれいにしとるけん、まあ麦が豊作ですかね」。二月六日、御勢大霊石神社では、粥をのぞき込み、氏子たちが安堵の声を上げていました。

自然や神様のお告げを受け取る、そのような光景がこれからも続いてほしいものです。

問

文化財課

☎75・7555

南北朝・菊池一族歴史街道推進連絡協議会 「菊池市編」九州南北朝時代の足跡をめぐる

問

埋蔵文化財調査センター

☎75-7555



10月号から紹介している、南北朝時代に活躍した菊池一族。最終回の今回は、菊池市を紹介します。

菊池神社

6代菊池武政は、菊池本城を隈府にある守山城へと移しました。この地は現在に至るまで菊池の中心地として栄え、明治時代には天皇の命により、菊池一族の遺徳を称えて本城跡に菊池神社が建立されました。



將軍木と松離子能場

菊池武光が後醍醐天皇の皇子・懐良親王を迎えると、九州における南朝方の政府「征西府」が菊池に置られました。親王のために披露したとされる「菊池の松離子」(御松離子御能)は国重要無形民俗文化財に指定され、現在も守り継がれています。懐良親王お手植えと伝わる將軍木(県指定)を親王に見立て、毎年10月13日に専用の能場である菊池松離子能場(県指定)にて奉納されます。